

菱田春草 ひしだのあつら、日本畫家。明治七年九月二十一日筑摩縣飯田生れ、
 四十四年九月十六日歿（六七—九二）。本名三男治。前號春舛、晴天
 秋江、駿走、黃壑。飯田小學校時代の圖畫教師に中村不折、同窓に樋
 口龍峽が居り、龍峽とは後年共に學藝組織縱橫會の會員として再會。
 明治二十八年東京美術學校繪畫科卒。翌年母校教員及び帝室博物館廳
 託となり古畫模寫に従事。三十一年岡倉天心、橋本雅邦等と日本美術
 院を創設、正員並び評議員となる。三十六年横山大觀とインド行、翌
 年天心、大觀等とアメリカに渡り、ニューヨーク、ワシントン等で大
 觀と合作展覽會を開き名聲を博す。その後歐洲を歴遊して三十八年歸
 國。翌年日本美術院第一節を茨城縣五浦いづらに移すに當り、天心、大觀等
 と同地に移住。四十年第一回文展、四十一年の第二回展と夫々二等賞
 受賞。四十二年審査員となる。

『春草畫集』（春草遺墨展覽會編、明治四十五年四月一日畫報社）刊。

